



新村の人口・世帯数
平成 31 年 3 月 1 日現在
人口 3,256 人
世帯数 1,310 世帯

古文書から読み解く 樽木川と川辺村の人々

3月6日(水)公民館特別講座が開かれました。下新北町会の柳澤孝雄氏を講師に、約70名の方が樽木川にかかわるお話を聴きました。

樽木川は、江戸時代松本藩が管理していた川で、樽木など屋根板に供する御用木を流していました。車馬など未発達な時代、川の利用は重要な運搬手段でした。

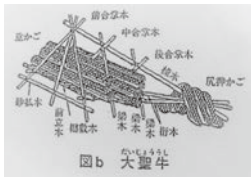
流した時期は農閑期の旧暦10月〜12月で、文禄4年(1595)に始まったそうです。

当時の川役人が頭を痛めたのは、流した御用木が員数通りに堀米渡場や下新揚場まで届くかどうか、ということでした。特に盗難には、厳しく警戒し、お流し中は、無用の者は川辺には近づかせない、違反すると過怠勤めをする。不心得者がいれば、どんな罰も負いますと請書を書かされました。

また労役も様々に課せられました。途中の



古文書を優しく解説



牛は川の流れを変えたり止めたり

堰口を締め切る仕事や、牛を川に備えつけたり、用木を樽木川に流し込むため、大籠や牛で梓川を止る「大籠メ(締め切り)」という難作業もありました。

大小の川普請なども、北三ヶ村(上新村・北新村・下新村)や近在の村々にも持ち場を割り当て、労役が行われました。また、明治になり、水害で「流れて来た木屑は誰のもの」「用水路の修復負担の不平等」で論争が広がり、合併新村が割れる危機になりましたが明治17年の「交換条約証」で、北三耕地、南二耕地で、川普請負担は合併以前に戻すことで分村の危機は解消しました。

文禄以来の村人たちの苦難の歴史が、今日の城下町松本を支えたとの感慨を覚えました。

お世話になりました

一色 美月

地域づくりインターンとしての3年間、あたらしの郷協議会を中心に、防災訓練や町会サロン推進などの活動に携わらせていただきました。

活動する中で、「若い人が出てこない」「役になると大変」「忙しい」という声が聞こえてきました。地区の会議が平日にあたり、行事が毎土日にあたりすると、それだけで役員の負担は大きいものと痛切に感じます。

私自身も、住んでいる地域にはなかなか関わることができず、これでいいのかと悩んだときもありました。

人口減少社会の現代で、役員負担の軽減は考えなくてはならないと思います。しかし、今ある活動をなくしてしまうのは勿体無いです。地域づくりという言葉はとても広い意味で使われ、即効性のある活動ばかりではなく地味な活動もあります。

新村の皆さんは真面目でどんなに忙しくても参加してくれる方ばかりでした。全ての地域づくり活動は人の繋がり無くしては行うことができないと改めて感じました。

私が地区の活動に取り組んでいるときも、地区の方が協力してくれました。その誠実な方たちに幾度も助けられ、なんとか任期を終えることができました。ありがとうございました。



伝達訓練 松大生が参集



地域の課題を皆で検討

一色さんは、松本大学地域総合研究センターの特別調査研究員として、新村地区地域づくりセンターを拠点に地域の課題や活性化に携わり、住民自治を支援する「黒子」として3年間活躍されました。

八束穂

「健康寿命 延都市・松本の創造」にあたり、様々な活動がある地域の健康づくりを目的に、町会から健康づくり推進員が選出さ

れ、二年任期で自らの学習を深め、家庭や地域に広めている▼他にも体力づくりサポーターや、地区生涯スポーツ指導者、スポーツ推進委員などがあるが、これらの組織はあまり知られていないように思う▼任期中だけでなく、学んだことを継続し実践して欲しい▼近年では、福祉ひろばの「ふれあい健康教室」で体力測定のお手伝い、体協の「ニュースポフェスIN新村」では、子供から大人まで楽しめるイベントも行っている▼これからも、それぞれの立場で協力し合い、生涯スポーツのお手伝い、世代を超えた「つどいの場づくり」を増やし、生きがいのある楽しい日々を過ごせるよう、地区のみなさんと協力していきたいと思っている。



春の訪れを華やかに

2月27日(水)公民館で「多肉植物のミニ寄せ植え講座」が開催されました。この寄せ植えは水やりが少なく管理が簡単です。

手作りの麻布で作った鉢に、バランスと色を考えながらゆっくりピンセットで植えていきます。緑、赤の色が映え、とつても愛らしく、かわいく仕上がりました。

今度はどんな容器にどんな植物を入れようかと、はまりそうです。強い生命力を信じて春の訪れとともに楽しめる講座でした。



ぷっくりと可愛く出来上がりました

第34回 公民館研究集会

「未来につなぐ 私たちのまちづくりの集い」と題して2月17日(日)Mウイングで開催されました。午前中の基調講演は、東京大学、牧野教授のお話を聞きました。「人生百年時代を希望の年と捉え、社会を永続させる社会教育の重要性」を訴えていました。

午後は、地域の未来について、11の分科会が開かれました。



希望の年と説く 牧野先生

おいつく「コーヒー」を音楽とともに

2月12日(火)福祉ひろばを会場に「第2回パティオにいむら」が開かれました。男性に居場所を提供する取り組みとして「コーヒー」の提供、ギターの弾き語りなどが行われ、地区の住民や大学生約30名が参加しました。参加者からは「次は友人を誘いたい」「本格的なコーヒーが飲めてよかったです」などの声がありました。



ギターのつま弾きに合わせ

この会は毎月一回の開催予定です。

あたらしの郷講演会



あたらしの郷協議会は2月23日(土)「児童への虐待と背景について」と題し、地区在住の波多腰力氏を講師として講演会を開き、40名ほどが参加しました。

波多腰さんは虐待の背景には様々な要因が絡み合っていると指摘。また虐待には身体的なもの他に様々な形があると、事例を交えて話されました。

昨今は、コミュニケーションが希薄になりつつありますが周囲の支えや援助の必要性を感じました。

新たな施設完成

2階にはレストラン

松本大学では学生の厚生施設として9号館が完成し2月4日に竣工式が行われました。鉄骨造3階建ての建物は、1階は学生が自由に利用できる「コモンルーム」。



新装レストラン

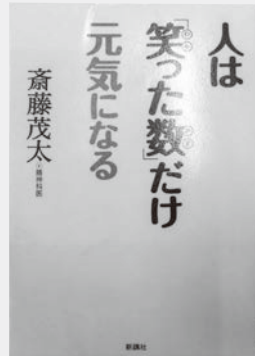
3階は大学院生のための演習室や研修室を設けています。2階は、自然の光を取り込んだレストランとなっております。

民間業者の運営で4月からオープン予定。時間を区切り一般の方の利用も計画をしているとのことです。ぜひ行ってみたいですね!

私のオススメ 図書

人は「笑った数」だけ元気になる

齋藤茂太著



この本には様々な効果や、気持ちの持ち方によって変わる生活環境、人間関係の円滑さ、また笑いがなくなるときの笑い方の工夫などが書かれています。

精神科医の著者は、心が笑えない人ほど無理をしても笑って欲しいと書いています。前向きな気持ちと気力・希望が湧いてくるからです。「笑う門には福来る」と言いませんか。

図書委員 田中 順子

図書コーナーの中から図書委員一押しのおすすめの図書を紹介いたします。



公民館活動推進 功労者表彰

2月17日、公民館研究集会の中で感謝状贈呈式が行われ、新村地区から1名の方が表彰されました。



関 徳雄さん (上新西) 体育委員 16年

長い間の活動有難うございました。

第31回新村地区

冬季室内競技大会

2月3日(日)芝沢体育館で行われ、綱引き・卓球で熱戦が繰り広げられました。

結果

- 綱引きの部 参加：9町会
 - 優勝 下新北
 - 準優勝 上新西
 - 第3位 北新中
- 卓球の部 参加：9町会
 - 優勝 下新南
 - 準優勝 下新北
 - 第3位 山王
- 卓球(小学生の部)
 - 優勝 山田愛悠さん
 - 準優勝 花村りりあさん